

高オレイン酸含有及び除草剤耐性ダイズと害虫抵抗性及び除草剤耐性トウモロコシの栽培実験

(栽培期間：平成27年度)

確認項目		確認結果
交雑防止措置について	○交雑防止措置について	国立研究開発法人農業生物資源研究所（生物研）の本栽培実験は生物研のほ場において行われ、このうち高オレイン酸含有及び除草剤耐性ダイズについては隔離距離による交雑防止措置を取り、生物研内の同種栽培作物までの距離が10m以上、生物研外の最も近いほ場との距離は約550m離れていることを確認しました。また、害虫抵抗性及び除草剤耐性トウモロコシについては、開花前の除雄による交雑防止措置を採っていることを確認しました。
	○選定場所における風の影響について	栽培実験区画は、過去のデータ等から、ダイズの開花期の平均風速が毎秒3mを超えないことを確認しました。
	○開花前の低温により交雑の可能性が想定される場合の措置について	交雑の可能性が想定されるような低温にはならなかったことを確認しました。
	○モニタリング措置について	本項目の対象ではありません。
混入・拡散防止措置について	○実験の種子、種苗の分別管理、野鳥等の食害による拡散防止について	種子は密閉容器に入れ、他の種子と区分して保管・管理していることを確認しました。 ほ場では播種後、一定期間防鳥網を設置して、野鳥等の食害による拡散を防止したことを確認しました。
	○栽培実験に用いた機械施設等の洗浄等について	機械等は栽培実験区画内で付着物を払い落としした後、管理棟洗い場で洗浄したこと、被覆等は栽培実験区画近くで払い落としを行ったことを確認しました。
	○第1種使用規程承認作物の収穫物の管理等について	収穫物は適切に保管・管理していることを確認しました。
	○栽培実験終了後の第1種使用規程承認作物等の処理等について	残渣は裁断し、地下部とともに鋤込みにより不活化したことを確認しました。収量測定後の植物体は焼却して不活化したことを確認しました。
	○第1種使用規程承認作物を栽培した区画での後作の収穫物の取り扱いについて	後作としてコマツナを栽培し、平成28年4月11日に鋤きこみを行ったことを確認しました。
栽培実験に係る情報提供について	○計画書の公表について	計画書について、平成27年4月27日にプレスリリースにより公表したこと、同日に生物研のホームページに掲載されたことを確認しました。
	○説明会の開催等について	説明会を平成26年5月14日に開催し、14名の参加があったこと、見学会は29件（531名）行ったことを確認しました。
	○栽培実験の経過に関する情報提供について	説明会の開催を含め、栽培の経過等について、23件の情報が生物研のホームページに掲載されたことを確認しました。
	○栽培実験を終了した後の情報提供について	栽培及び処理の終了について、平成26年11月12日に生物研のホームページに掲載されたこと、また、栽培の結果について、平成28年4月27日に別途開催した説明会において説明したことを確認しました。
栽培実験に係る管理体制の整備について	○栽培実験に係る管理体制の整備について	栽培実験責任者、作業管理主任者及び情報提供主任者を指名して管理体制を整備していることを確認しました。

(参考) 国立研究開発法人農業生物資源研究所の栽培実験に係る情報提供について

「第1種使用規程承認組換え作物栽培実験指針」では、栽培実験の開始前から終了に至るまで適宜、情報提供することとしています。

高オレイン酸含有及び除草剤耐性ダイズと害虫抵抗性及び除草剤耐性トウモロコシの平成27年度栽培実験に係る情報は、国立研究開発法人農業生物資源研究所ホームページ（以下のURL）にてご覧いただけます。

http://www.nias.affrc.go.jp/gmo/gmotop_2015.html

以下に、掲載されている情報の一部をご紹介します。



遺伝子組換えトウモロコシの播種の様子。
(平成27年6月5日)



遺伝子組換えダイズの発芽の様子。
(平成27年6月10日)



遺伝子組換えダイズの区画に防風ネットを設置した様子。
(平成27年7月17日)



鋤込み終了後のほ場の様子。
(平成27年9月29日)